

循環器内内科

文責：大村 昌人

概要

平成30年6月現在の常勤スタッフは大村昌人（循環器科長、救急部科長 山口大学 H6卒）、山田寿太郎（冠疾患治療科長 鹿児島大学 H6卒）、平野能文（検査科長 島根医大 H6卒）、白石宏造（高知大学 H18卒）の4名である。長年当科長を務められた百名英二（山大 S49卒）濱田芳夫（山大 S55卒）、非常勤医師として勤務して頂いている。

診療

冠動脈インターベンション、カテーテルアブレーション、DEVICE 植込（CRT、ICD 含む）末梢血管インターベンションなど大学病院と同等レベルの観血的治療はおおよそ self-limiting に賄っている。昨年の冠動脈インターベンションは156件であった。かつては280件ほどあったものの病院の転居とともに症例数が低迷したがここ数年は右肩あがり徐々に伸びてきている。心エコーは医師以外にも優秀なソノグラファーが日々検査に従事してくれており（昨年6535件；経食道心エコー52件）循環器外来初診時にデーターを全て揃えられる環境にある。経食道3D心エコーによる弁膜症の画像的評価などを高性能のエコー機器を駆使して行い心臓血管外科との合同カンファレンスを通して術式の決定や術中管理などをおこなっている。またICD植え込み術をはじめカテーテルアブレーションなどの不整脈の観血的治療を施している。

研究／学会発表

各医師ともに多忙な診療の合間をぬって臨床研究を行い精力的に学会発表、講習会講演、座長などを行っている。

カンファレンス

毎週火曜日午前8時00分～循環器カンファレンスを行い情報共有、診断治療の方針を決定しており、水曜日午前7時30分～8時30分心臓血管外科との合同カンファレンスを行い心臓カテーテル検査のレビューや治療方針の決定、興味ある症例の紹介・討論などを行っている。

平成30年度診療実績

平成29年のそれと比較して大差はないが、我々スタッフは365日のCCU待機制をとり、心不全や心筋梗塞をはじめとする循環器急性疾患に対応すべく最善策を講じている。さらに、循環器ホットラインを導入し、開業医からの連絡を当科医師が直接受けることにより、徐々に患者の受入数が伸びている。今後、地域の信頼をえて、さらなる症例の増加を図る所存である。急性冠症候群はこの1年間で76名が入院し緊急冠動脈インターベンションを施行されている。平成26年4月より保険診療報酬上も救急車到着時よりPCIのバルーンによる冠動脈血流再還流時までの時間が問われるようになったが同年7月現在で平均58分と設定された90分以内をほぼクリアできており迅速な連携の賜物と自負している。昨年1年間の心筋梗塞の院内死亡例は1名、全体の1.5%であり全国の水準（5～10%）をはるかに凌ぐ良好な成績をおさめている。狭心症に対するPCI合計は119件であった。

心臓カテーテルアブレーションは18例。カルトシステムの常設とし心房細動に対する肺静脈隔離術を中心としてPSVT、VT等にたいし治療を行っている。

植え込みDeviceもペースメーカー（新規52件、交換31件）、植え込み型除細動器（新規9件、交換2件）、CRT-P（新規3件）、CRT-D（新規5件、交換4件）と県内有数の数を行っている。

心臓カテーテルアブレーションは18例。カルトシステムを用いて心房細動に対する肺静脈隔離術やPSVT、VT等に対する加療を行っている。